

事業計画書

事業名	「かがやけファーム」事業（継続）
実施場所	沼津市足高地内
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2019年 4月 1日～ 2020年 3月 31日

◎事業概要

農園関連活動の実施を通じて、当法人の活動目的の人材育成・再生支援事業を行う。

- ①市内各所、特に愛鷹山附近では、耕作放棄地の増加や後継者や人材不足で苦慮している現実があり、これらの有効活用で消費者に野菜を直接配送する仕組みを構築する。
- ②現在の管理農地を耕作のみならず、農業体験の提供と指導を、幼小中学校へ進めて行く。
- ③農業者に対し、耕作放棄地等のリノベーションを勧め、農業再生へ向けた人材支援を行う。
- ④健康で活躍できる高齢者に働く意欲と社会貢献の一助として活躍して頂き、雇用促進に繋げ、障害を持つ方には、収穫・出荷の補助作業の雇用や支援を行う。

◎目的

- 1 市内の荒地や耕作放棄地の活用、後継者や人材不足への対応、収穫時季や草刈等への支援
- 2 当 NPO 農園の有効活用及び農業体験教室の実施
- 3 農業生産者を支援する会員制度の充実
- 4 高齢者・障害者の雇用及び支援

◎実施内容

日 程	実施項目・作業項目
	<p>H28年度から開始した事業であり、今回で3期目となる。</p> <p>当初一ヶ所の農地から開始した事業であるが、新たに近隣農地の所有者から依頼された農地も増え、現在の所3ヶ所の農地を開墾している所であり今後も同様な依頼が増えてくる見込みである。これら農業の継続が困難となっている農家と協力し、耕作放棄地を活用することで、これまでと同様に障害者の就労の場としての機能を保ちつつ、農業生産者支援制度(会員に対して農産物を配送し農家と消費者を直接つなぐシステム)に加え、新たに消費者自身が欲し作物を自分で収穫し購入して行く、収穫体験と販売を兼ねるシステムを構築し市民の就農意欲の醸成を図るものとする。新たに当センター隣にB型支援作業所を設置し、障害者の方に農産物の加工作業をする事で商品化を図ると共に、東名高速の愛鷹パーキングエリアからの出店の依頼も来たことから、これに対応する。</p> <p>【全体スケジュール】 スタッフ：5人 障害者雇用：5人(農作業：週2回 12ヶ月 計96日 会員への配送梱包：4ヶ月に1回/年4回 合計100日)</p>

月	活動内容	参加者数
4月	・収穫祭(子供の日親子参加募集)実施計画・収穫及び会員への配送 B型支援作業所の設置、パーキングエリアへの出店	20件
5月	・子供の日親子収穫祭 ・加工品の出荷準備	一般 20名
6月	・耕作及び作付け作業・農業支援会員の募集	10件
7月	・夏休み農業体験実習参加者募集・パーキングエリアでの農業祭等	一般 20名
8月	・夏季収穫物会員向け・夏休み家族農業体験実習	30件
9月	・収穫及び会員へ配送・秋物野菜の植え	
10月	・一般者農業体験実習	一般 15名
11月	・一部冬季種付け	
12月	・暮、正月用収穫(一部)	
1月	・春物野菜の植え	
2月	・農閑期・土作り・春物苗植え付け	
3月	・春物野菜収穫準備・農業体験教室実施	一般 20名

◎事業効果

<p>農業の継続が困難となっている農家と協力し、一般市民との交流の機会を作る。 採れたて野菜の販売だけでなく、欲しい作物を一般の方々自身で収穫し購入する新たなシステムを設ける事で、農業体験も出来る。現況農地1ヵ所に窓口・作業場並びに作業小屋の設置農業会員の拡充を図り、収穫野菜等の配送や販売に係る袋詰めや箱詰め等、補助的な作業をする作業場を設置する事で、障害者雇用の促進を実施する場の提供となる、就労・継続支援B型作業所の認定を受け、センター隣に作業所を設置し、加工品の制作に着手する。</p>			
成果指標	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 支援会員数 50人 → 300人 農業体験や体験教室の満足度の向上</p>	指標の検証方法	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。 体験教室の参加者へのヒアリングやアンケート調査により満足度を調査する。</p>

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>これまでは愛鷹山付近の耕作放棄地農地を数ヵ所耕作し収穫できるまでにして来たが、まだ周辺には多くの放棄地があり、後継者不足の農家からも人材不足から活用を依頼されている。更に一般者に農業との係りを持つ事ができる機会を作り、人材不足や連帯感を持つ事でこれらの解消をすることができる。また、B型支援作業所と連携することができる。 耕作放棄地としての将来性防止は急務である。しかし農地を障害者の就労体験の場の提供、子供たちの社会教育の場として活用する選択肢は有効である。更に今、中心地のコミュニティが不足している中、周辺地域と連動する第二コミュニケーションを考え、広域にトータルで発動する広報活動費の確保、総合施設等地域の必要性を一般向け説明会、セミナーを実施して行く。</p>
地域性	<p>地域的に農地地区でほとんどの農家が後継者不足で管理委託を余儀なくされている。そこで公共的にビジョンを打ち出せば周辺農業者との共同化を図れる。又農地としてだけではなく農家と消費者を直接つなぐ交流の場、農業にチャレンジする人の農業体験の場・障害者の就労支援及び社会参画の場、子供たちの社会体験の場として、有効活用することで、地域の活性化に繋がり、近隣農業者の協力を得る事ができる。</p>

<p>先導性</p>	<p>地権者への関わり合いを作る意味でも、現在抱えている管理農地を正常化させ、一般者とのコミュニケーションを構築することで、地権者に柔軟性を持って頂き、次のビジョンの関心を深め次世代農家の若者へ魅力とやる気に繋げて行く。 支援会員のシステム構築を進める。従って、様々な立場の人達が関わることで地域の課題解決の一端を担う農地のあり方を提案している。</p>
<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>放置地を農地としての活用のみならず、種々の体験の場とし、又地権者の後継者不足、活用法、アイデア等を提供し、共同化も実現できる。民間には自然や土に触れる機会を再構築し、教育の場『社会教育』として当法人が目指す理念・趣旨(活動プログラム)を進めて行く。更に愛鷹山周辺の地を教育環境として広域に位置づける。近隣に運動公園、免許センター等があり、施設地としての可能性は大である。立地として売りこめる。更にアピールし集客も可能になり収益にも繋がる。進行している事業が起動に乗ってきたことで重要なのは会員増大と本事業に関心をもち係り合いになって頂ける人材確保にある。現法人会員数、160名で農業支援会員50名、今後急速に増員し、300名を目指して行く。又障害者自立支援法の就労・継続支援B型事業所として目度が立ちセンター隣の用地も確保でき作業所として運営実施して行く。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>当法人がリーダーシップを取り、周辺地域農業者とのコラボレーションと障害者・高齢者の活動場所が拡大し、更に一般市民への農業関心と土に触れる機会を創る事ができ、愛鷹山及び運動公園周辺の活性化が見込まれる。更に若者の農業関心への機会となり、農業が日常的なものとしての認識が高められる。又今年度は、通信制高等学校の認可が取れ社会教育への感心もたかまり、本来の人材教育、再生事業の主旨も一般に認識して頂けるようになった。</p>
<p>活動に対する熱意</p>	<p>農業を実際に体験して来て、その年の自然との戦いや虫や動物、土壌の変化など思いもよらぬ出来事が起きる中、情熱は基より、体力勝負が肝心である。損な取り組みでも収穫での喜びはひとしおです。早く皆さんに届けたいそんな思いで取り組んでいます。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

- ・耕作放棄地の活用や障害者・高齢者の雇用の機会の提供を進めるため、より一層、地域と連携した取組を行う。
- ・平成31年度に認可される見込みであるB型支援作業所としての機能を充実させ、障害者の雇用の機会の提供や支援を進める。
- ・平成31年度（事業3年目）で、一通りの備品が揃うため、本事業の支援会員の増加を図り、持続した事業となるよう努めていく。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

これまでの事業により、地元地域の理解と協力を得て対象となる耕作放棄地を増やすことができたり、本事業に理解をいただき、東名高速道路愛鷹パーキングへの出店依頼も来ていて、事業の拡大を感じている。また、当初目標の一つである耕作放棄地の活用に連動したB型就労支援施設への認定についても、現在、静岡県や沼津市の担当及び地元自治会と調整中であり、今年度、申請できる見込みである。今後、更に活動の支援会員を増やすこと等により、この活動を継続し、持続していくよう努めていく。

◎特に高い公益性を有することの説明（ハード部門のみ）

※補助金申請額が「特に公益性が高い事業」に該当する場合は、その理由を記載して下さい。